戦中派の魂魄

追悼・大澤俊夫先生

川久保 剛

大澤先生、私のような初学者にも追悼文を執筆する機会を与えて頂きましたので、先生とのご縁や先生から頂いた感化を中心に、想うところを記させて頂きます。先生にはじめてお目にかかったのは、麗澤大学を会場に開催された比較思想学会の懇親会においてでした。麗澤大学の水野治太郎先生のご紹介で大澤先生にご挨拶する機会を得たのです。私が大学院で日本思想史を専攻していることを申し上げると、大澤先生は大変喜ばれ、この分野の開拓者の一人である倫理学者・和辻哲郎に触れながら、日本思想史がいかに重要な学問分野であるかお話して下さいました。また、麗澤大学並びにモラロジー研究所の創立者である思想家・廣池千九郎を日本思想史の観点から研究する意義についてご教示下さいました。散会後には、わざわざ会場の隅にいた私のことも来て下さり、「君に会えたのは収穫だったと」とおっしゃって下さり、ただただ感動し、これがご縁となり、仙台で、再び先生の聴講に親する機会を頂きました。所要で来仙された先生は、当時東北大学で学んでいた私を、お食事にお誘い下さったのです。ご馳走を頂きながら、さまざまな教訓をお授
け頂きました。学問は基礎が重要であること、人文学は古典研究が必要であること、人間は「畏れる心」を忘れないことが必要であることを、学生時代の先生の教えに従って学びました。

戦前、西欧哲学の枠組から仏教を再構成する研究で高く評価され、マールブルク大学やカレル大学の教授を務めた霊的な哲学者です。西山に共感の念を抱いていたこと、そして忘れないのが、哲学史・北山常友に関する研究です。北山は、北山が、大澤先生と同郷（静岡・焼津で）で、こ создの力が彼の地での足跡を調べる手掛かりを探しておられるとのことでした。

日本思想史の方面で北山の消息を知る人はいないだろうか、というお尋ねでした。残念ながらお答えすることは出来ませんでした。人間の心を大切にされる大澤先生の姿に接することが出来ました。
戦中派の魂魄

したので、わたしたちは戦中派の魂魄が水面に現れたとき、我流の戦中派を起こすのが役に立つと考えております。

やがて、大澤先生から頂いた「日本思想史から見る戦中派」という研究テーマに精一杯取り組んで参りました。それが、他の研究者たちと対話し、お互いの考えを交わすことで、新たな視点が生まれるというものです。

それは、戦中派が日本思想史に与える影響と、その将来への可能性を追求するための試みと考えられています。
今後は、学外の研究者にも参加を呼びかけて、亀澤の理念や「道徳科学」について自由に議論できる場を、学内に設けていきたいと考えております。幸い亀澤大学では、中山理学堂の強力をリーダーシップのもと、「道徳科学教育センター」が設立されてきているので、これを利用できると思います。大澤先生、残念ながら、先生にご指導頂いた期間に私益は皆無でした。それでも、先生の名を冠して「道徳科学教育センター」の一部として、学生を対象にした訓練を企画され、その環境作りに取り組んでいくと念願しております。

さて、私が先生に於ける教育の影響について考えると、それは先ず、本人が「道徳科学」の講義の内容を理解するための準備がなされ、その内容を紹介することから始まったものであると考えられます。特に、「道徳科学」の内容が社会現象を理解するためのツールとして役立つことが示唆されるので、先生は常に現代的社会現象について考え、その影響を克服することに努力されました。さらに、先生の教育活動を通じて、学生は「道徳科学」の重要な意義を理解することができ、その影響は、自分自身の生活や社会の発展に反映されるでしょう。
いきたいと思います。そして、先生から頂いたこと縁をこれからも大事に育てていきたいと思います。本当にありがとうございました。